

講義名	人権問題論				授業形態	
担当教員	李 明哲	開講期・曜日・時間		後期 水曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
主題： ①「人権問題」という言葉で表現されている（来た）事象は、どのようなものを学ぶ。そのさい、たんに暗記する知識ではなく、人権が奪われたり、軽視された人々の顔や声、ことば等をとおして、具体的に学ぶ。 ②人権問題は、たんに「悪いやり」の問題として片付けられるわけではなく、「社会構造」が生み出していることを知り、その同じ社会に生きる、自分たち一人ひとりがどう動くかを考えるきっかけとする。 概要： ・この授業では毎回「学習シート」に、自分の考え、他学生の考え、ディスカッションの経緯などをまとめてもらう。 ・授業開始時には、前回シート内容の一部紹介・フォローをおこなう。 ・授業中、できるだけグループディスカッションの時間を取り入れる。 ・具体的に考察できるような、動画、写真、新聞記事などを用いる。原則、動画は、指定したものを次回授業までに視聴してきてもらう（アクティブラーニングの「反転授業」に該当する部分）。						
到達目標						
①人権問題の歴史と現状についての全体像を理解し、印象に残ったいくつかのテーマについては、その問題の要点、および今後の課題などを説明できるようになる。 ②学習シートやディスカッションをとおして、人権問題にかんする自分の考えに向き合い、授業をとおしてどのような変化が自分のなかに生じたかを論理的に記述できるようになる。						
提出課題						
・学習シート：毎週のテーマにかんして自分の考え、他学生の考え、ディスカッションの経緯などを記述。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
・授業開始時、前回テーマの学習シートを渡って、フォロー（フィードバック）を行う。 ・具体的には、意見が多かったもの（典型例）、大きく立場がわかれたもの（対立例）、人権問題としてテーマの深い理解につながるもの（参考例）などを紹介する。その上で、追加説明や事例などを示す。						
評価の基準						
・学習シート 50%（提出と内容） ・期末試験 50%（人権問題の各テーマの要点を理解した上で、いくつかのテーマにかんして、自分の考えを論理的に記述できているか）						
履修にあたっての注意・助言他						
・原則、全回を対面で開催します。 ・人権問題に関心がある人はもちろん、社会の常識・当たり前と言われることに違和感や抵抗感がある人も歓迎します。 ・グループディスカッションでは、いろんな人と意見交換するために、途中の座席移動などもお願いするかもしれませんが、有意義なディスカッションとなるよう、協力をお願いします。 ・各回予定は、できるだけ「授業計画」のとおりに進めるが、やむを得ず変更する場合、授業中に事前にお知らせします。						
教科書						
・使用しない。						
参考図書						
.新・21世紀の人権。		江原由美子		日本評論社		4535525978
.人権をめぐる十五講――現代の難問に挑む。		辻村みよ子		岩波書店		4000291173

その他			
・授業では、スライドを縮約・印刷した資料を配布します。 ・必要に応じて、ポータルに資料データをアップします。			
授業計画			
1.オリエンテーション：授業の進め方、評価方法、「人権」とは？、人権問題の位置付けについてなど			
2.子どもと人権：家庭での虐待や、いじめなどを事例に、子どもの人権を考える。			
3. 高齢者と人権：家庭・施設での虐待や、社会からの孤立を事例に、高齢者の人権を考える。			
4.ホームレスと人権：貧困者への偏見と、自立支援について学ぶ。			
5.障がい者と人権：あらゆる場面で見られる、障がい者差別と優生思想の問題を学ぶ。			
6.ジェンダーと人権：フェミニズムの歴史、男女不平等の実態、女性の社会的役割固定化の問題を考える。			
7.LGBTQと人権：同性愛差別と、同性婚の問題、および多様な性のあり方について学ぶ。			
8.被差別部落と人権：日本の伝統産業を支えながらも差別や偏見の対象となってきた、被差別部落民の歴史と現状を学ぶ。			
9.アイヌ・沖縄と人権：日本のなかの異文化・異民族でもある、アイヌ・沖縄の人々の歴史と現状を学ぶ。			
10.外国人と人権：在日外国人の生活・労働環境、収容施設の問題を知る。			
11.在日コリアンと人権：在日コリアンの歴史と現状を知り、在日の日本社会での法的・社会的位置づけを理解する。			
12.ヘイトスピーチと人権：ヘイトスピーチ（ヒートクライム）は、どのように生まれるのか、社会にどのような影響を与えるのかを知り、ヘイトスピーチなくするために必要なことを考える。			
13. 人権差別と人権：アメリカでの黒人差別と公民権運動の歴史を学び、最近のBLM（ブラックライブズマター）やアジアンヘイトの問題について考える。			
14.戦争（紛争）と人権：植民地支配、戦時中（紛争中）には、いかに人権が無視されるかを学び、グローバル化した世界での私たちの責任を考える。			
15. これまでのまとめ：これまでの学習やディスカッション内容を活かし、改めて考えるべきことを議論して、人権問題の理解を深める。			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）	☐	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
・予習：指定した動画視聴、テーマに関連する新聞記事や言葉の確認など。それを受けた自分の考えのとりまとめ。2時間を想定。 ・復習：ディスカッションや講義から、自分の考えがどのように変化したのかを記述し、あらたな問いや考えをとりまとめておく。1時間を想定。 ※これらの作業は、期末試験対策となる。			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
人権問題の社会的理解、およびディスカッションを特徴とする本授業の修得は、 本学ディプロマ・ポリシーについて、とくに以下の点と関連があります。 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
実務経験の有無及び活用			
備考			
・授業に3分の2以上出席しなかった者、期末試験を受験しなかった者は、単位を取れない。 ・やむを得ず欠席した回の学習シートを「自己学習」として提出する場合、減点した上で受け取る（授業中のディスカッションなどが反映されたものとは別扱いとなるため）。			